

三依地区全体を巻き込んでのサロン

三依地区
栃木市地域おこし協力隊

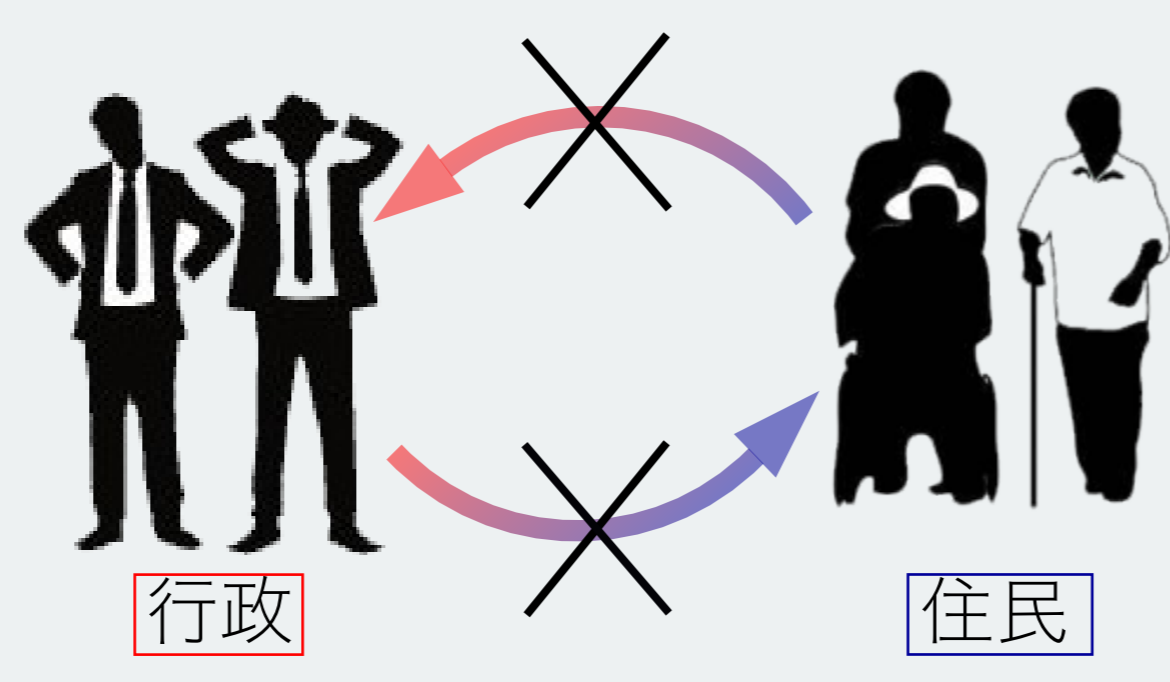
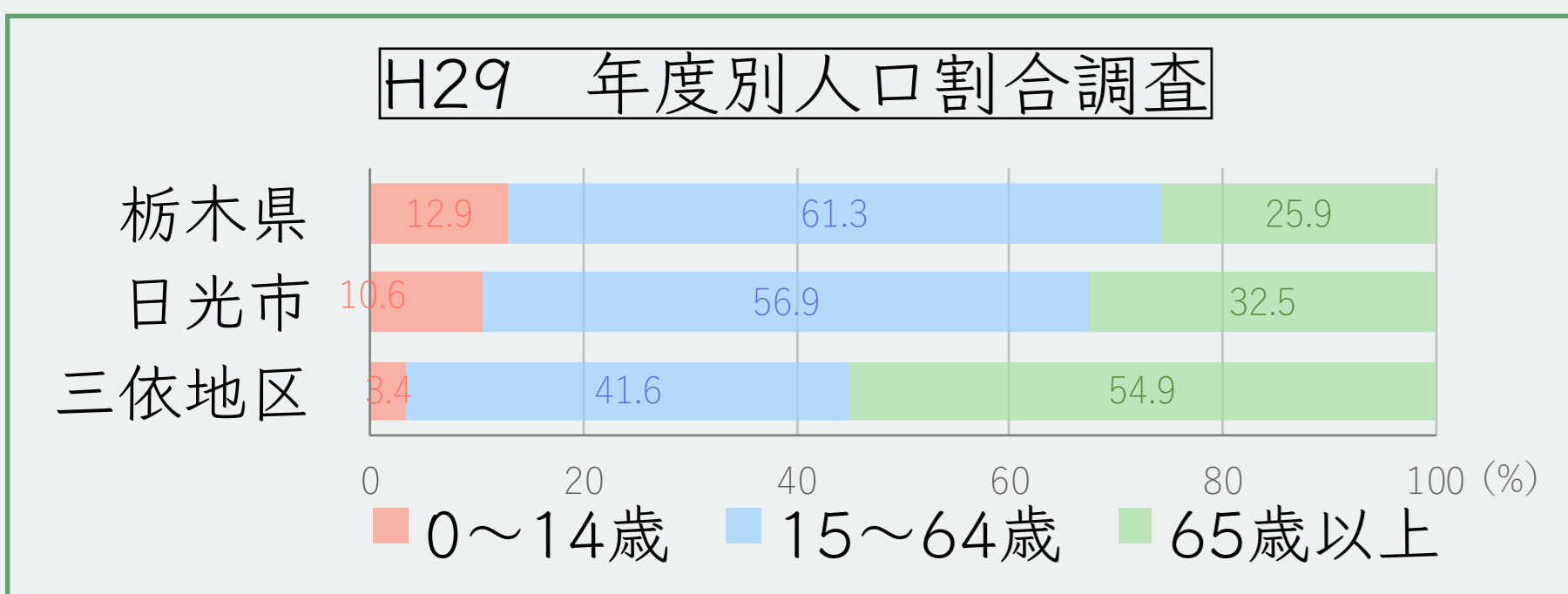
18班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

佛川 北條
磯田 黒田
鈴木

1 背景

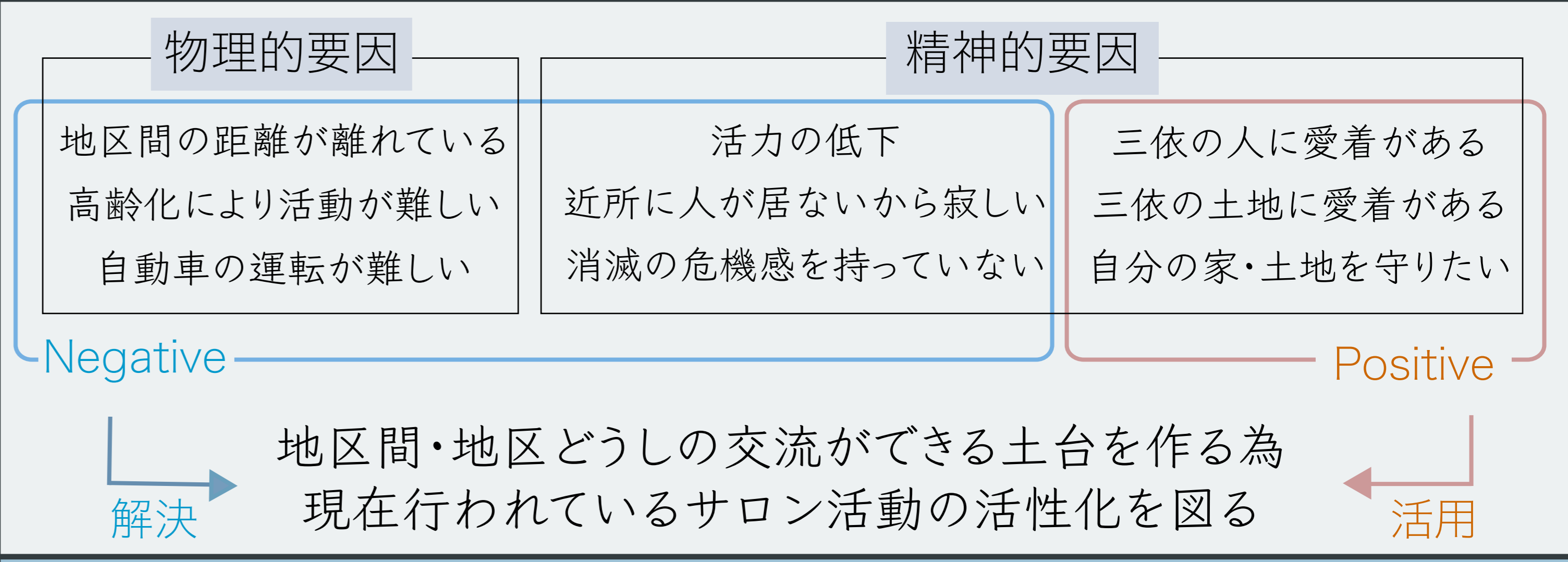


三依地区は日光市の北部と福島県の県境にある。6つの集落から成り、これらの地区間距離が離れているため、地区どうしの付き合いが困難である。



炭焼き産業が盛んだった頃は多くの人暮らししていた。しかし、時代が変わるにつれ衰退し、現在の人口は363人(H29) 高齢化率は約54%と、超高齢社会が進む限界集落地域の一つ。また、行政と住民の間に温度差があり、プロジェクトの進行が困難な状況にある。

2 目的



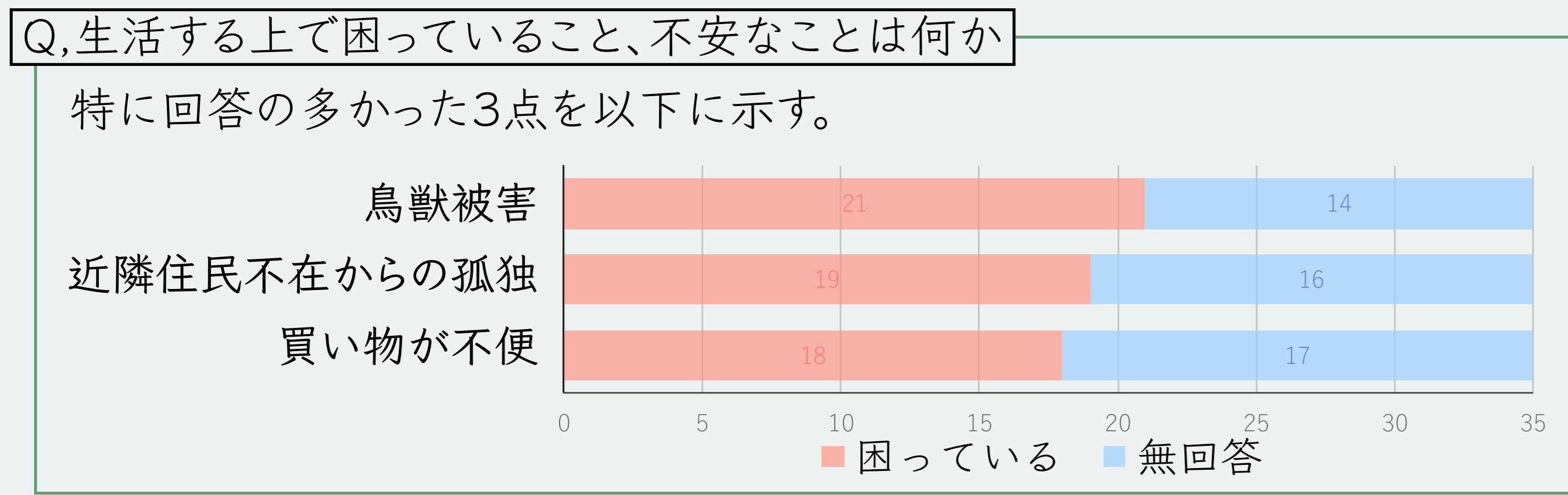
3 方法

- 1st ヒアリング調査
 - 期間；4月～7月
 - 対象；横川地区 自治会長・自治副会長 / 芹沢地区 職人
- 2nd ヒアリング調査・アンケート調査
 - 期間；8月～10月
 - ヒアリング調査 対象；三依地区内で商店・溪流釣り場経営者 地域おこし協力隊
 - アンケート調査 対象；三依地区住民
 - 質問項目 地域活性化や地域内交流への意識、外部から若者が来ることへの抵抗感の有無を問うものとなっている。

4 分析結果 (アンケート結果)

(期間；H30/8/1～10/28 回答者；35名)

① 生活



[原因]

鳥獣被害

鳥獣被害は以前から問題となっていたが諦めている人も



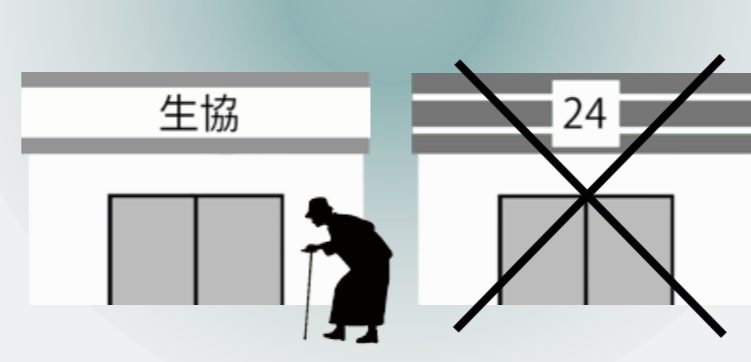
近隣住民不在からの孤独

超高齢社会化や三依地区から離れる人が多くなったことによる空き家の増加



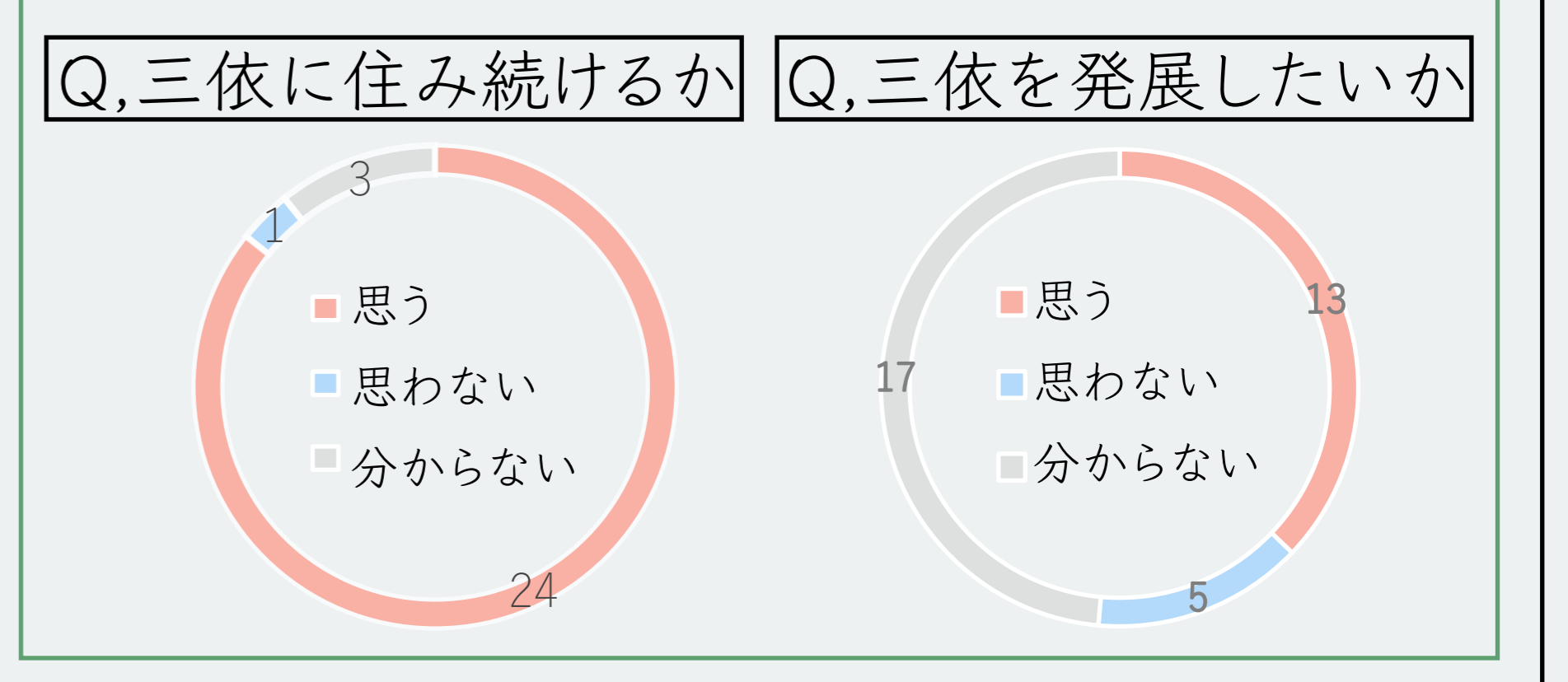
買い物が不便

三依地区はスーパー、コンビニ、移動販売が無く、生協店舗のみの利用



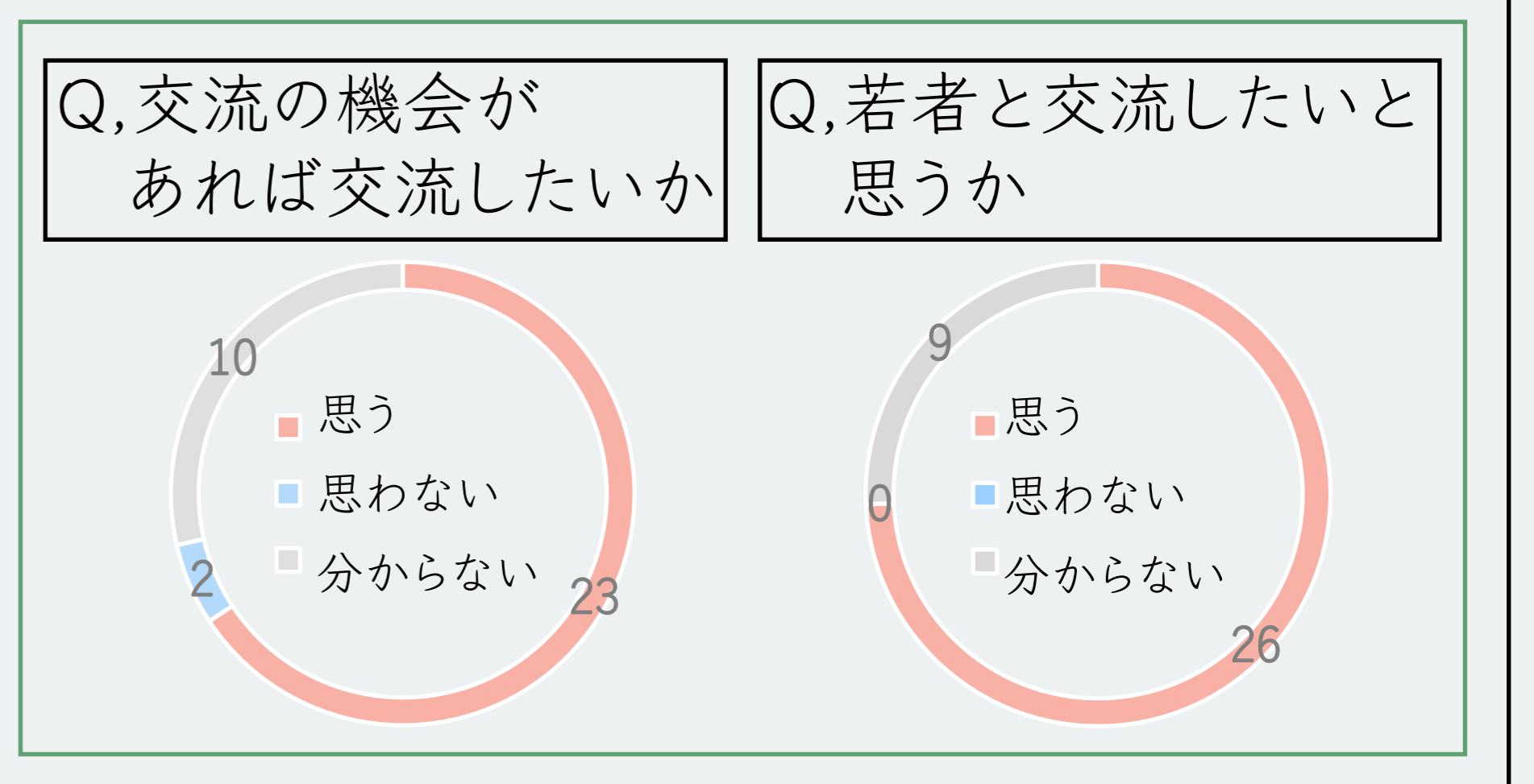
② 三依

三依の今後については活性化させるのではなく、このままの三依の状態を保ちたいと考えている人が多い。これは、土地・家を守りたい、人・土地に愛着を持っていることからである。



③ 交流

新しく人と集まる・外に出るきっかけや、若い人と関わる機会を作ることについて前向きな意見を持っている人が多いことが分かる。これより、受け身な人が多い為、きっかけづくりが重要であることが分かる。



④ サロン活動

現在、サロン活動は行われているものの参加者が固定していることからマンネリ化が問題となっている。一方で、サロン活動に対して前向きな意見を持つ人もいる。その為、マンネリ化を打開できるようなサロン活動として、住民の意見を取り入れたもの、参加者が増えるようなものへと変える必要がある。

Q,どんなサロン活動をしてみたいか



5 提案

アンケートで「生活する上で困っていること、不安なこと(選択回答)」の項目は、「鳥獣被害」と回答した人が多かった。また、「どんなサロンに参加したいと思うか(自由回答)」という項目については、「鳥獣被害対策講演会」と回答した人が多かった。また、三依において鳥獣被害についての課題は、今回の演習開始時に提起されたことの一つでもある。そこで、我々はこの点に着目し、はじめの一歩として、鳥獣被害対策の講演会を催すことを起点とし、最終的な提案とする。

